

生成AI時代に「本当に」求められる能力とは？

生成AIの急速な普及により、業務効率化や生産性向上が期待されています。しかし、生成AIを「なんとなく」使っているだけでは、期待した効果は得られません。生成AIを強力な「武器」として活用し、真の成果を上げるために、生成AI時代に求められる能力と、それを習得する方法について解説します。

現状の課題

生成AIを導入した企業から「期待していた成果が得られない」「社員ごとのスキルにばらつきがあり、業務が非効率になっている」「指示文(プロンプト)がうまく作れず、生成AIからの外れな回答ばかり返ってくる」といった相談を受ける機会が増えています。生成AIはただ導入すれば成果が上がるわけではありません。そこで、生成AIの特性を理解したうえで、実際の課題解決に応用する能力を持つ人材を育成することが求められています。

研修の実施

これらの悩みを解決するには、単なる操作方法の学習機会を設けるだけでは不十分です。研修では以下の3つのスキルについて、演習を通じて体系的に学びます。

- ①プロンプトエンジニアリングの基礎:望ましい結果を得るためのプロンプトを設計するスキル
- ②AIリテラシー:生成AIの仕組みや課題を理解し、回答を鵜呑みにせず安全に活用するスキル
- ③実践的活用術:生成AIを実業務に組み込むスキル

「③実践的活用術」では「活用シーンの把握」と「生成AIとの効果的な壁打ち技術」が重要です。生成AIには非常に多くの「活用シーン」があり、それらを研修でお伝えすると、受講者から「こんな使い方ができたの!」との声が多く上がります。さらに、生成AIと何度もやり取りしながら自身が望むレベルの成果物を作ってもらうための「生成AIとの効果的な壁打ち技術」を身につけます。

研修の成果

研修後、受講者からは「資料作成の時間が激減した」「生成AIを優秀な部下のように使いこなせる感覚が掴めた」など、期待した成果を得たとの報告が上がっています。生成AIはもはや「使うか使わないか」ではなく、「いかに深く使いこなすか」の時代です。生成AIを使いこなし、自らの仕事に新たな付加価値を生み出す人材を育成する必要性はますます高まっていくでしょう。

※この記事は実際の研修事例を基に、4つの生成AIと壁打ちしながら作りました。



株式会社新譚舎
代表取締役 亀田 峻宣

自然総研では、お一人からご参加いただける「自然総研セミナー」を開催しております。年間20テーマ以上、多彩な講師陣が登場し、質の高い学びの場をご提供いたします。

亀田講師は、2026年8月6日(木)「生成AI活用の基礎研修」に登壇します。

★本研修は「特別ご招待券」をご利用いただけます★



HPIはこちらから